



No.57 2020.6.8

明石市コミュニティ・スクールだより

人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

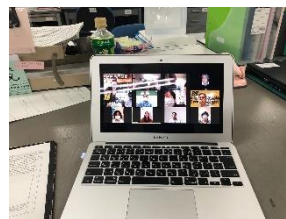
KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

動き始めました



朝霧小学校コミュニティ・スクールが Zoom で学校運営協議会を開催してからもう2週間がたちました。その間に子どもたちが学校に戻ってきました。Zoom での会議も初体験でしたが、これまでに作りあげてきたつながりは、“リアルな会議でも Web での会議でも熱量はかわらない”と会議を参観して感じましたが、その会議で話し合われたことが見える形になってホームページにあげられました。“学校をまちを 元気に”するために、まず人が集まる場をつくり、学校や地域の応援団＝サポーターを生んでいこうというのが朝霧小学校校区の今年のねらいです。「〇〇先生の公開講座(先生の特技をいかして)」というのが興味ありますね。こうした取組が



きっかけとなって、保護者・地域の中からも講師さんが生まれるかもしれませんね。そんなつながりをサポートするツールが Zoom だと思います。Zoom だから開放してくれるものがあるのではと思っています。

そんな Zoom での対話で生まれてきた面白い企画があります。姫路のある小学校で父親有志による「おやし@Zoom」が開かれているそうです。その話の中でいろいろなアイデアがだされ、新学期が始まってなかなかつながれなかった子どもたちが、つながれる場所をつくらうということで「オンライン アピールセッション」という企画が生まれたそうです。オンラインで“ステイホーム中こんなこと頑張ったよ”“実はこんなことができるようになった”“こんなことが得意なんだ”といったそれぞれの良さを保護者の方も一緒にアピールしながら友だちをつくらうという企画で、現在進行中だそうです。是非実現してほしいですね。こんな対話を生んでいけるのも Zoom が持つ可能性なのかもしれません。

アフターコロナの学びを

朝日新聞 EduA の記事の中で広島県教育委員会の平川理恵教育長がコロナ後の学校の役割について語っておられるインタビュー記事がありましたのでご紹介させていただきます。

Q.オンラインが普及すると求められる先生のスキルはどう変わるのでしょうか。

先生たちはゴールデンウィーク中も、G Suite や Zoom などについて、一生懸命、勉強していました。日本の教師は真面目ですから、使いこなしていくと期待しています。

東京の私立高校に通う友人の子どもは、先生から送られてきた動画を 1.5 倍速で見ているそうです。その子は通常の数倍だとつまらないんでしょうね。これからの時代、先生は50分の

授業を 5 分の動画で説明することもできなくてはならなくなるでしょう。

また、英語のスピーチをする、ダンスのビデオを作る、論文を書く、といった「パフォーマンス課題」を出すときに、どういう観点で評価するのか、ルーブリック(目標達成度を評価するための基準を表にしたもの)を事前に明らかにする必要があります。

授業の動画コンテンツを作るのは大事だけれど、ほかの人が作ったものを活用すれば済む部分も多い。先生の役割は、生徒に対して本質的な問いをきちんと出し、授業の主題に対して探究的に取り組む姿勢を育成し、一人ひとりの学びに向かう力を支えたり刺激したりするようにファシリテートする、ということになっていくと思います。

人との距離感や社会性の育成は、オンラインだけでは限界があります。話し合いや協働学習など、学校で顔を合わせることでしかできない授業をどう進めるか。それも先生の力量になります。

Q.新型コロナの影響は長期化すると見られます。今後については？

学校の役割は変わっていくはず。これまでは、教室へ行って、他の人と同じ時間に勉強することで学びが完結していた。だから、不登校の子は学校での学びには参加できなかったけれど、オンラインにシフトしていけば、登校しない子どもだって学べる。先ほど挙げましたが、「学びを止めるな」と「合理的配慮」という二つの観点が、これからの学校には必要だと思っています。「アフターコロナ」は、子どもが中心の学びになっていけば良いと思っています。ある時は家でオンライン授業を受け、ある時は町に出て職場体験、ある時は地域でスポーツや習い事。そういう中で自分が何者かということを考え、自己認識と自己表現をしたうえで、社会へ出ていくというイメージです。今はトランジション(移行)の時。そうやってポジティブにとらえていきたいと思っています。

また、日本教育新聞からの引用ですが、「広島県教育長に聞く 広島県のオンライン教育の取組」と題した講演会の中でも次のようなことを話されています。



○緊急時はできない理由を並べる場合ではない。こういう時こそ、教育長や校長などがリスクを取る決断をする必要があります。

○これまでは児童・生徒が校舎に集まり、チョーク&トークの指導がスタンダードでした。しかしこれからはオンラインでの教育が進み、個別最適化された学習が実現しやすくなるのではないのでしょうか。これまで不登校の子どもや授業についていけない子は置いてきぼりになってしまっていました。オンラインでやりとりしたり、個別最適化された学習ができたりすればこのような問題も解決できるのでは。

○これまでは「どうして ICT 化を進めるのか」という声が多く聞こえてきました。これからは「どうして ICT 化を進めないのか」という時代です。今は ICT 化を推進するいい機会だ。

視聴者からの、「オンライン教育をやりたいくても学校が許さないという環境にある場合どうすればいいか」という質問に対して、「上からの支持を待たず、多少勇み足でもやってみる。怒られたらあとで謝ればいいのだ。」と回答されたそうです。

社会が変わる中で、学校を変え、学びを変えていくためにはこれくらいの意気込みが必要なんだと思いました。今回の新型コロナウイルス感染症により一気に進んだ社会の変化に対応するために、「勉強の時代」から「学びの時代」へ「学びのイノベーション」を我々がどう起こしていくかが問われているのだと思います。日本の学校が抜け出せずにいる「勉強の時代」に染みついた意識から脱却できるかどうか問われているのだと思います。(文責:北本)